

担い手支援、連携強化

農業系高校と意見交換

JA山形
中央会

JA山形中央会と県高校教育研究会農業部会は10月中旬、山形市のJA研修所で農業・農協教育研究会を開いた。新規就農や担い手支援などで一層の連携強化を図っていくことを確認した。

新庄神室産業、村山産業、左沢、上山明新館、置賜農業の県立5高校と県教委、家の光協会北海道東北普及文化局、日本農業新聞東北支所などから15人が出席した。担い手の問題で、農業系高校から農業法人への就職のパイプづくりに取り組んでいく必要があるとの認識で一致した。

いる例は珍しく、JA共済連山形の県立農林大学校や農業系高校への農業機械支援の動きなども踏まえ、今後、連合会にも研究会への参加を促すことも検討課題とした。

JAグループ山形地域・担い手サポートセンターから、園芸関係の法人で担い手が不足しているとの話があり、法人側と新規高卒者のマッチングや、法人でのインターンシップ（就業体験）などの機会を設けてはどうかなどの意見が出た。

農業生産工程管理（GAP）への取り組みでは、高校での指導の必要性を共有し、JAなどに指導を求める声もあった。JAグループと農業系高校が懇談の場を設けて